



まちがど トピックス



つづやま
甘山のだんじり

まび谷のだんじり



■爽やかな秋空の下、自慢のだんじりを曳行

10月第2・3週の土・日曜日、市内各地で、秋の収穫を祝うだんじり祭りが実施されました。10月8日には、この春に大修理をした甘山のだんじりが錦織神社に宮入りしました。また、祭り本番を控えた9月22日には、今年新調された毛人谷のだんじりが町内を練り歩いてお披露目されました。両地区のだんじりが曳行される先々で、見物客らは盛んにカメラのシャッターを押していました。



■復興米、被災地に届け！

9月14日、桜井町の田んぼで、東日本大震災の被災地岩手県大槌町で津波に流されながらもがれきの間で穂を实らせた稲ガルーツの「奇跡の復興米」の稲刈りが実施されました。

収穫された同米は、大槌町や熊本地震で大きな被害のあった熊本県益城町に届けられる予定で、泥だらけになりながら稲刈りに奮闘した児童たちは「被災地の人たちに食べてもらって元気になってほしい」と笑顔を見せていました。

■認知症になっても安心な町に

10月2日、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりをめざそうと、認知症患者や家族、支援者がたすきをつないで日本を縦断する啓発イベント「RUN TOMO-RROW 2016 (愛称・RUN伴 (とも))」が本市で初めて開催されました。

シンボルカラーであるオレンジ色のTシャツを着た17チーム総勢73人の参加者が、市内をリレーし大阪狭山市へたすきをつなぎました。



写真とともに見る9月～10月のできごと



■秋にもおひなさまを飾ります

10月8日、富田林寺内町およびその周辺で、じないまち四季物語2016「秋」～後の雛まつり～が開催されました。

これは健康と長寿を願って、秋にもおひなさまを菊花とともに飾った江戸時代の風習を再現したものです。

当日は秋晴れの下、優雅な菊花とひな人形が溶け込んだ寺内町を多くの方が散策していました。

■産前・産後の強～い味方！

10月から、妊娠中や出産後に体調不良などで、一時的に家事や育児が困難な家庭にヘルパーを派遣する「育児ヘルパー事業」がスタートしました。今年2月に双子を出産し、早速利用されたお母さんは「今日は洗い物をしてもらい、子どもたちとゆっくり触れ合えました。2時間500円の利用料も魅力です」と喜んでおられました。同事業の利用を希望される人はこども未来室（内線205）へお問い合わせください。



■温かい思い伝わる贈り物

10月3日、市老人クラブ連合会女性部の皆さんが市役所を訪れ、手作りの「ひざ掛け」を寄贈されました。これは、100歳を迎えられる人をお祝いするとともに、いつまでも健康で長生きしてほしいという思いで作られたもの。多田市長は「皆さんの温かい思いも伝わり、とても喜んでもらえると思います」とお礼を述べました。

なお、このひざ掛けは今後100歳を迎えられる皆さんに百寿のお祝いの品として贈られます。

■日本代表として活躍！

9月27日、東京都で開催された第34回少年軟式野球世界大会に日本代表として出場した、小学6年生の面脇 正悟さんと井上 航輝さんが教育委員会顕彰受賞のため、市役所を訪れました。府の選抜チーム「全大阪」メンバーの一員として参加した2人は出場した試合で打点をあげたり、盗塁を決めたりと活躍され、見事チームを準優勝に導きました。

2人の今後の活躍が楽しみです！

